



動く！ 拓く！ 明日のまちへ

おざわ「建設・企業常任委員会」
副委員長

昨年10月、おざわ良央県議会「建設・企業常任委員会」副委員長は、小田原市守屋市長等と神奈川県小坂橋副知事始め各種都市基盤整備事業に責任を持つ、県土整備局の総務室、都市部、道路部、河川下水道部等の局長、部長等との面談を仲立ち。小田原市域の安心安全なまちづくりの一層の推進と、安定的な予算確保について要請。副知事等から、「今後は県西地域の事業促進に一層力を入れます。」との明確な回答をいただきました。(以下要請概要)

1 (都)城山多古線・小田原山北線
久野側のトンネル明かり部一帯の埋蔵文化財の調査中だが、調査やその後の事業計画の推進をお願いしたい。



要請内容は、道路、河川、海岸、公園等に関わるまちづくり全般で、関連予算、道路・河川や台風等自然災害対策、更におざわ良央が“ライフワーク”として県議初当選以来取り組み、思い入れの深い“伊豆湘南道路”構想の推進等で、以下概略をご紹介します。

2 (都)穴部国府津線
事業推進から多年が経過。市民から早期対応を求める声が強い。用地取得の一層の取り組みと予算配分をお願いする。

3 (都)小田原中井線
地元調整等いろいろ課題もあるが、市としても事業への理解を深めるべく対応を図る。一層の事業推進をお願いする。

4 海岸の被害軽減について
越波の原因に砂浜の後退もある。酒匂川の堆積土砂での養浜による漁業被害解消のため、土砂洗浄経費で事業量が半減した。簡易的洗浄の試行で事業量は増えたが、養浜事業の一層の促進を。根本的対策として、海岸の堤防強化・高上げの早期事業着手をお願いする。

6 酒匂川、狩川、山王川、森戸川、早川の河川整備について
「神奈川県水防災戦略」に“緊急に実施し被害を最小化するハード対策”で山王川の護岸工事等が位置づけられ整備が進んでいる。また狩川の内水氾濫で沿岸家屋等に浸水被害があり、堆積土砂撤去や霞堤の検証等、流域の安全のために一層の対応をお願いしたい。

おざわ良央のライフワーク！

5 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路計画 (伊豆湘南道路) の推進
県西部と静岡県東部を結ぶ新たな東西軸となる構想路線。伊豆縦貫自動車道の沼津から函南間を使い、熱海、小田原へと延ばす構想。小田原厚木道路や西湘バイパスと連結できれば、東京都内や北関東とも直結し、広域的な道路ネットワークが形成される。国の予算も付き、両県合同で概略ルートの検討に着手するが、本市も県と一体となり進めたい。構想の推進をぜひお願いしたい。

7 県立おだわら諏訪の原公園
公園の造成、建設工事、維持管理経費に課題があることは理解するが、現地では、耕作放棄地や鳥獣被害等が顕著になり、地権者を越えて地域社会の問題となっている。事業推進をお願いしたい。

ズーム
ZOOM UP
アップ

求む! 保育士さん

少子化対策が急務です。“働き方改革”では子育て支援や女性の活躍が大きく取り上げられ、国は子供を安心して預けられる環境の整備を急ぐ必要に迫られています。保育所の待機児童数を、令和2年度末までにゼロ、とする目標達成は難しい状況で、大きな問題の一つは保育士不足です。おざわ県議は平成30年2月県議会で、子供の健やかな成長を支える大切なインフラとして保育サービスの充実を取り上げ、待機児童の解消、更に、県西地区での保育士確保を取り上げました。今般のコロナ禍により、現場の負担増が懸念される中、おざわ県議は早速県当局へ出向き、改めて地元県西地区への保育士確保へ向けての格別な対応を要請しました。(以下対談概要)

対談



おざわ 保育士確保のため、都市部を中心に給与の上乗せや家賃補助など独自の処遇改善を行う等、都市間競争の様相を呈している。県としてどのような対策が必要と考えますか。

次世代育成課長 保育士確保対策に当たっては、まず保育士の養成が基本となりますが、いわゆる潜在保育士の復職を支援する取組みや、現任保育士の就業継続を支援する取組みを併せて展開することが必要だと考えています。

おざわ そうですね。「働き方改革」が注目される中、保育士の就業継続には、給与な

どの処遇改善だけでなく、就労環境の改善、効率化や保育の質の向上とも相まった環境整備が重要です。

保育士の就労意欲向上につながる運営やそのための環境づくりなど、保育所や保育現場に対する総合的な支援が必要ですね。

次世代育成課長 県では令和2年度から保育所の「働き方改革」を推進し、保育士の負担を軽減することにより、就業継続の支援、保育の質の向上を図ることを目的とする「保育所等就業継続支援事業」を開始しました。この事業は、保育所等に専門家を派遣し、その業務内容や労働環境の実態を把握・分析し、改善策の作成や具体的な支援を行います。今年度はモデル園として川崎、茅ヶ崎市内の2園に派遣しました。

おざわ コロナ禍で学校が休校し、休業要請や外出自粛が続く中でも、保育所は開所継続を求められ、社会経済の基盤を支える役割を担っていただきました。新型コロナの収束が見えない状況で現場の負担は大きく増加しています。

次世代育成課長 更なる保育士不足を生じさせないためにも、「働き方改革」を進めるとともに、ICT(情報通信技術)の活用も含めた総合的な取組みによる業務の効率化を図ることで、保育の現場がより魅力あるものとなり、長く勤め続けることの出来る環境となるよう、引き続き取り組んでいきます。

おざわ 県西地域の保育所や保育現場の状況把握、また保育士確保に特段のご配慮、ご支援をお願いします。

自民党県議団 市町ヒヤリング

去る7月30日、荻窪の県西地域県政総合センターで、自民党神奈川県議団政務調査会の主催で、県西地域二市八町の市町長等から、神奈川県政への地域要望をお聞きする会を持った。おざわ県議も、小田原市への財政支援、コロナ対策、福祉、教育、基盤整備、防災、産業経済等40件もの各分野にわたる要望を、地元県議としてしっかりと受け止め、速やかに県当局と調整、それぞれ丁寧な回答を伝えました。



JAかながわ西湘 学習会

昨年11月17日、「JAかながわ西湘」の国政県政学習会が開催され、おざわ県議は、農協としての県政への政策要請書を受け、その後、県政報告と意見交換会がありました。



二市八町の農家を代表する大勢の農協組合員の皆さんの前で、県政の現状と課題について報告し、活発な意見交換もできて、おざわ県議にとっては、農家の皆さんの日々の努力、そして現状や将来への悩みや不安を直接お聞きして、大変有意義な一刻でした。



立ち位置

目線は常に地元です

県議二期目ともなると、議会や委員会の質問の機会も新人優先で減ります。そういう中で、おざわ良央県議は、予算委員会委員、また建設・企業常任委員会副委員長として昨年も続けて質問。勿論、立ち位置や目線はいつも小田原市や県西地域です。詳細は、TV神奈川の放映や、タウンニュース等にて既報。以下質問項目のみご紹介します。



「県内経済の回復へ向けて」

県議会予算委員会報告



令和2年7月、県議会予算委員会でおざわ県議は、今や最大の政治課題“コロナ禍”対策について、中小企業や小規模事業者への支援強化に的を絞り、知事や県当局に次の質問をしました。

- ① 事業者の資金繰り支援について
- ② 事業者の再起促進支援について
- ③ 商店街に対する支援について
- ④ 県内製造工業品購入促進事業費
- ⑤ ベンチャー企業支援について
- ⑥ 農業、畜産業、水産業への支援
- ⑦ 地元かながわ再発見推進事業
- ⑧ 経済の再開と回復への取組み

知事からは「きめ細やかに積極的に対応し、県内経済のエンジンをしっかりと回します。」との力強い答弁がありました。

(TV神奈川7月20日放映・タウンニュース8月22日号掲載)

「地域の安心・安全をめざして」

建設・企業常任委員会 副委員長報告

去る10月、建設・企業常任委員会が開催され、おざわ副委員長は、地元小田原市や県西地域で多発する自然災害への対応や、今後の備え等について、2日間にわたり質問。県当局の果敢な対応を求めました。

- ① 森戸川護岸災害復旧工事について
- ② 酒匂川三保ダムの事前放流について
- ③ 市内主要河川の整備について
- ④ 狩川の霞堤の内水氾濫について
- ⑤ 簡易水位計や簡易型河川監視カメラ設置について
- ⑥ 南足柄市と箱根町を結ぶ県道整備促進について



防災・減災対策や都市基盤整備はまちづくりの基本です。県当局の速やかな対応を強く求めました。

(タウンニュース10月31日号掲載)

JR線 高輪ゲートウェイ 新駅

視察

NEC・NSI イノベーション ベース

去る9月、自民党神奈川県議団2期生有志で、JR山手線、京浜東北線の品川～田町間の新駅として誕生した“高輪ゲートウェイ駅”を視察。新駅の先進的な施設、サービスのあり方や周辺の再開発計画等の説明を受け、地域の新たな発展を予感させられました。



「NEC・NSI日本橋イノベーションベース」は、新しい働き方改革やデジタルワーク、オフィス環境と、時代の潮流を先取りした、ビジネス、業務、働き方の変化を体感できる場所です。

去る11月、県議会島村議長とおざわ県議始め有志議員で視察。激変するビジネス環境の近未来の現場を視察して、新鮮な驚きと感銘を受けました。